

## 平成27年度 第3回学校協議会概要

平成28年2月23日(火)

15:00~16:40

### 1 開会の挨拶

### 2 第2回学校協議会のまとめ

### 3 本校の状況

#### (1)生徒指導<別紙資料>

- ・遅刻、懲戒件数とも大幅に改善してきている。
- ・今後は、自ら行動する力を養っていきたい。

#### (2)進路指導<別紙資料>

- ・今年度の進路状況及び進路先についての説明

#### (3)資格取得状況<別紙資料>

- ・昨年度に比べ、のべ受験者数、合格率とも上昇した。

#### (4)各系の取組み紹介

##### ①環境化学システム系<別紙資料>

- ・いたすけ古墳の浄化活動に関する取組みとメディアへの取り上げの紹介。
- ・9月の堺市立博物館での発表、11月のEko1グランプリ近畿大会出場、3月の産業振興センターでの発表の紹介。
- ・堺市中学校の社会科の副読本に本校の取組みが掲載される。

##### ②電気系<別紙資料>

- ・各種競技会で、優勝等、好成績を収めた。
- ・電気系各種資格試験への取組み。特に第二種電気工事士取得者は全国34位。今後は合格率の向上に取り組んでいきたい。

##### ③機械系<別紙資料>

- ・各種コンクールで優秀な成績を収めた。特に全国製図コンクールでは最優秀特別賞を受賞。
- ・今年度の堺工たたらを紹介。
- ・各種技能検定への取組み紹介。

#### (5)学校教育自己診断、授業アンケートについて<別紙資料>

- ・「学校教育自己診断」の集計結果(生徒用、保護者用、教職員用)の図表を紹介。
- ・平成27年度「授業アンケート」の集計結果の図表及び平成25~27年度の集計グラフ、散布図を紹介。

#### (6)その他

- ・「堺ジャーナル」の記事紹介。

#### 4 協議

- ・「授業アンケート」の設問内容確認及び3年間6回の集計結果、散布図の確認。
- ・散布図から全教科の平均と各教科の平均の比較。国語、社会、保健体育、芸術が平均より上、数学、理科、英語等が平均より下という傾向が見られる。身近な教科が取っつきやすいのだろうか。
- ・平成27年度は家庭科が低い。
- ・工業系の割に理科、数学が低い。
- ・学力上位校以外では、このような結果になる。国語と社会は単元毎に内容が変わっていくので取り組みやすい。数学、理科は小学校からの積み重ねである。小学校での学習内容が十分に習得しないまま中学校に上がり、高校に入学してくるので益々理解が困難になる。数学や理科は蓄積型の教科なので、計算問題からやり直さなければならぬ。ここを伸ばすには資格取得とセットにすると効果が上がるのではないか。
- ・「補習」とすると生徒のモチベーションが上がらない。より上位の資格をめざしているように感じられる。これは、今の自分より高い目標だとわかっているのにやる気が出るのである。小学校や中学校の復習であると言われるとやる気が出ない。より上位の資格やコンクール成績をめざすために、自信を持ち始めている子供たちにその自信をかぶせて、基礎的な問題に取り組ませるのが高校生にはよい。プライドや自己評価をうまくすぐっていくと長い目で見て成果が現れると思われる。
- ・楽しく授業ができる雰囲気があればよいと思う。
- ・授業の工夫や資格取得などモチベーションが下がらないような気持ちをうまく基礎学力向上につなげていく工夫が必要。
- ・データより予習、復習ができていない傾向や先生方の授業の工夫が感じ取られていない傾向が読み取れる。
- ・先生が替わるとポイントが下がる気がする。親しみを持つまで時間がかかるのではないか。
- ・「授業アンケート」からは、教科による特徴が感じられた。改善していくには、資格試験と同様に、生徒の上昇の気持ちをうまくセットにして、基礎学力の向上を図る工夫が必要である。
- ・生徒用、保護者用、教職員用の「学校教育自己診断」の結果を確認。データをまとめた表の解説<別紙>。
- ・評価の高いところは、根拠が見えやすい。例えば、資格への取り組みや遅刻件数。子供たちにとっても、先生方にとってもできるかできていないかはっきりわかり、答えやすい。基礎学力が付いたかどうかと言うようなことは、本人の目標値の違いによって、先生方との評価が異なる。根拠が目に見えないものは、本人の尺度で回答するので、生徒と先生の相対関係は解釈しにくい。AやBで回答していることより、CやDで回答していることに着目し、なぜそのように回答しているのか検証するほうがよい。資格取得に意欲的でない生徒について、資格取得したくないのではなく、自分が取りたい資格がないという生徒もいるのではないか。進路指導とセットで考える。例えば、この資格がどの仕事に役に立つのか、世の中に色々な仕事があってその仕事に就くのに必要な資格はどのようなものがあるか。あきらめてしまっている生徒は、基

礎学力に問題があり、基礎学力向上へのサポートとやる気を継続させる働きかけが必要である。CやDと回答している生徒達に目を向けるのが建設的である。

保護者についても根拠がわかるものについては肯定的な評価が高い。保護者は小中学校を含め子供から情報を得るので、子供が否定的な意見を家庭で話すと、保護者は学校に良い印象を持たない。子供に働きかければ、そのまま保護者に反映される。

教職員の場合は、職員規模が大きいく、職員室が分かれていて、日常的なコミュニケーションが難しい。各系、分掌の代表が出てきて行う各種会議では、委員以外の先生は集約された意見しか聞かされないので、自分の意見が反映されていないと感じる。職員室が分かれているような場合はよくあることだが、即座に改善するには、物理的に変えていかなければならないのですぐには不可能である。コミュニケーションフローをよくするには、会議の場を多く設定するのではなく、インフォーマルコミュニケーションが進むような変革をしたほうがよい。小学校では、お茶が飲めるような休憩場所を設けると休憩時間に人が集まり情報交換ができる。経営学の四大資源のひとつである「情報」が先生方に共有されていることは、学校組織を作るのに効果的である。インフォーマルな情報交換しあえる雰囲気作りをするのが有効的である。

〈注〉質問に対する回答として

よくあてはまる→A      ややあてはまる→B

あまりあてはまらない→C      まったたてはまらない→D

- ・中学校は職員室が一つである。雑多な情報交換の場は、朝の登校指導や昼食指導の門のところや校内巡視の廊下である。
- ・物理的には難しいだろうが、系を超えて一つにすることは可能か。
- ・以前勤めた学校では、全教職員が入る職員室をつくった。そこをベースに各教科の準備室を配置した。本校では、90名を超えるような教職員が入るスペースはなく、無理である。新しい学校作りをしたときはそのようなことが配慮できる。専門高校としての科目の特色もあるので難しい。
- ・小学校でも、職員が200名を超えるような大規模校では、物理的に一つにできてもコミュニケーションはとれない。50名を超えれば難しい。中学校の先生の発言にあったように、校門指導は現実的な場である。公式な場以外のどこで先生方はよく顔を合わせているか考えてみるとよい。意図的に情報を発信しない先生方は結構多い。情報の価値を自分で判断して出す出さないを決めるのではなく、どのような情報でも流れるような言いやすい雰囲気をつくるのがよいと思う。色々な情報が総合的に集まってくることは良いことだという認識が必要である。
- ・アンケートは公式な会議についての回答であって、決してコミュニケーションがとれていないわけではない。
- ・生徒、保護者とも堺工科に概ね満足しているという回答が得られているのは良いことである。
- ・今後どう展開していくか。マスコミへの露出を増やす。DVDの製作も堺工を選択してもらおう手段のひとつ。世界遺産へのからみでの取り組み。堺市立小中学校で使う副教材にも取り上げられる。我々が提言してきたことを学校として強力に推し進めてこられた状況が、回り回って生徒保護者の評価につながっている。更に、今回から入試

が一本化される中で堺工を選んで頂くにはどうするか。

- ・堺工にとっては厳しい。受験層が変わる気がする。受験制度が前期後期制に変わる前のような状況ではないか。
- ・学校としては、認識している。学校を如何に生徒、保護者、地域に伝えるかということで報道などを活用してきた。学力、個人、家庭に差があるので、如何に目的を持った子を増やすか。学力の差ではないと思う。そのあたりを焦点化して特色を出してきた。来月の入試の結果を見てこれから考えていかなければならない課題である。
- ・工業の中での選択肢では評価が高い。今度は普通科との選択肢になるので根幹部分が異なる。となると、駅から近いとか家から近いというような条件が優先されてくる。今年のように相対的に評価されると自分の意思とは関係なく成績に左右される生徒が出てくる。今まではダメ元で受けようかという生徒がいたが、今回は1回しかないので、かなり慎重に選択するようになる。中学校としては、ほとんど二次はないと考えている。
- ・今年は3200人ぐらい中学卒業生が少ない。私学の状況を見ても、先願が少なく、併願も少ないと判断している。中学生にとって入りやすい状況になっている。次年度も3500~3600少なくなる。高校側はそのようなことを踏まえて取り組む期間が3年4年かかった。今後とも本当に工業を学びたい生徒にアピールすることが必要である。
- ・工業だから工業を前面に出すよりも、普通科にあるようなことも取り入れなければどうだろうか。学校行事に不満を持っている生徒も多い。子供なので、あまり専門化するのもしんどい部分が出てくるのではないかと。ただ、本校卒業生も堺工に来て良かったとは言っている。学力の中間層が流れる。
- ・そのあたりは、普通科高校で特に心配されているところである。学力中間層の学校が割れるのではないかと。本校はそのような普通科高校よりさらに安定して入学でき、将来があるということがポイントである。今年の入試結果が一つのベースになると考えている。
- ・行った生徒の評価は良い。
- ・受験生徒を増やすということで……。文科省のSPHに応募されているのは堺工科高校としてすばらしい取り組みである。府立大学や府立産業技術総合研究所と協力し教育を推し進めていこうというような体制を学校全体として取り組むことに応募される。府内で北野、天王寺というような進学校でも差別化として取り組んでいる。泉北高校でもSSHを売りにしている。SPHも採択されれば知名度も上がって良い方向に進んでいくと思われる。堺工の進む方向としてそのようなことにチャレンジすることは重要であると考えます。私も府立大学としてお手伝いしたい。学校としては色々な状況を打破していくために、力強く歩もうとしている事に対して、学校協議会も協力していきたい。

## 5 閉会の挨拶